

11月6日に投開票が行われた米大統領選では、オバマ政権になつて政府が導入した「オバマケア」の是非が争点になりました。米国は公的な医療保険がありません。各自が民間の保険会社と契約し医療費を貯うのが原則だったのですが、保険料が払えず無保険者が多くいるなどの問題が出てきました。オバマ大統領は保険加入者を増やす制度改革に踏み切ったのです。日本では医療保険は196

ニュースを読み解く

やさしい経済学

第3章 社会保障の考え方

慶應義塾大学教授 土居 文朗

3

1年から強制加入の国民皆保険制度が導入されており、オバマケアを巡る議論は分かりにくかったかもしれません。でも、民間の保険会社があるにもかかわらず、なぜ医療保険などの社会保障は政府が運営するのでしょうか。

経済学からみた最大の理由は「逆選択」を防ぐためです。保険に入つても、リスクに直面しなければ、保険料だけ払わされて給付がありません。いわゆる「掛け捨て」です。もし、健康な若者などリスクに直面しにくい人が掛け捨てを嫌がり、医療保険に加入しないとなるでしょう。加入するのは、リスクに直面しそうな人ばかりになります。

す。自動車保険なら、事故を起こしそうな運転の下手な人ばかりということになってしまいます。この現象を「逆選択」といいます。逆選択が起きると、保険給付がかさむので、保険料が割高になってしまいます。これは、加入を任意にするため生じるのです。

また、保険会社など運営する側（保険者）は、加入者のうち、どの人がリスクに直面する確率が高いかを容易に見分けられません。生命保険な

どは病歴などを告知しますが、正しい回答が得られるとばかりません。保険者と保険加入者との間には、情報に差があります。この現象を「逆選択」といいます。逆選択が起きると、保険給付がかさむので、保険料が割高になってしまいます。これは、加入を任意にするため生じるのです。政府が強制加入とした社会保険などの社会保障は政府が運営するのでしようか。

政府が強制加入とした社会保険制度を運営すれば、逆選択は起ります。この利点が、強制加入にする理由の一つです。ただ、強制加入制度をつくるのは政府でも、保険の運営は民間に任せた方がよいとの考え方もあります。